

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年9月7日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数)
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870201179
事業所名	グループホームヒロセ
(ユニット名)	もくれん
記入者(管理者)	
氏名	渡辺 優紀
自己評価作成日	平成 29年 8月 15日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 相手を思いやる「和」の心と利用者様に「誠意」をもって接する</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議が家族代表者の負担にならないよう、職員も関わりながら家族会を行うよう取り組んだ。家族間のみでの話し合いはほとんど出来ていない為、面会時等に、家族様同士で会話できるよう声かけをしている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 母体の医療法人の安心と信頼のネットワーク体制を活かし「和の心」と「誠意」をもって支援している。利用者の生活には潤いと安らぎが保たれ、日々和やかに笑顔いっぱい過ごしている。明るく素直で物事に真摯に取り組む職員は、利用者一人ひとりの思いを大切に自主性を守りながら支援している。利用者を人生の先輩として思いやり接している職員の所作は優しく、利用者からは感謝の言葉をもらうなど利用者職員は良好な関係が継続している。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	その人らしい暮らしができるよう、アセスメントを行い、希望に添った生活ができるよう支援している。	○	/	○	利用者の思いや暮らし方が記録された「気持ちシート」を活用し、利用者に寄り添い利用者本位の支援につなげることができるよう、日頃の生活の様子を見落としがないよう注意し観察に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々、表情や行動を観察しながら本人様がどう思っているか検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時などに本人様について話し合い、カンファレンスを行っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	気持ちシートを作成し、職員間で情報を共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	普段から利用者様の表情や行動など、細かな変化を見落とさないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に気持ちシートを作成し、今までの生活歴等を聞いている。	/	/	○	家族から入居前の生活歴やこだわりなど、詳しく聞き取り「気持ちシート」に残している。大切なアルバムなど利用者の思い出の品々や馴染みのある懐かしい場所などを日頃のかかわりの中から聞くことに努め、利用者の意向に沿った支援に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	状況観察を行い、関わりの中でできる事などの把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	細かく情報交換・申し送りをし、皆が共有できるようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	変わったことなど、申し送りをし変化を見落とさず、情報を共有しながら把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ケア実施記録に1日の流れを記入し、情報を共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎日カンファレンスを行い、本人様や家族様の意向を聞き話し合っている。	/	/	○	利用者の状態はささいなことも見逃さないよう常に見守っている。変化が見られた場合は、家族と話し合う機会を設けており、カンファレンスで検討し利用者一人ひとりにあったケアに努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人様の状態や状況に合わせて、できる事・やりたい事を話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	本人様の希望に添える、より良い生活ができるよう話し合っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思いなど、アセスメントに記入し、反映できるようにしている。	/	/	/	朝、昼、夕方の方の申し送り時には、職員間で意見交換しており、内容によっては家族と話し合う機会を設けているほか、月1回のカンファレンスで議題に掲げ、よりよい介護計画の作成に職員全員で取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	1ヶ月ごとにカンファレンスを実施し、変わったことや日々のケアについて話し合っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人様や家族様の意向を聞きながら、できるだけ今まで通りの生活ができるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族様に本人様の状態などを、面会時に話し合ったりしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケース記録に個別の介護計画を記入し、把握できるようにしている。	/	/	○	サービス計画書を職員全員で共有しており、職員がいつでも対処できるようになっている。利用者については、昨日と違うことなど事細かく記録しており、それをもとに支援方法を考えている。利用者の言葉・表情・状況その対応について個別ケース記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケア実施記録に実施状況を記入している。実施できていないときは支援している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別ケース記録に、状況や対応などを記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ケアプランの経過と共に、気づいたことも記入している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月に1回見直ししている。状態変化があればその都度見直ししている。	/	/	○	状態変化が特になければ、基本は3か月に1回の見直しを行っている。家族が遠方の方は、電話にて状況を知らせ、意見を聞いている。毎月1回のカンファレンスで、家族も交え話し合っている。常に利用者の変化を把握し、随時アセスメントし家族にも連絡し、検討し、見直し、一人ひとりにふさわしい計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、本人様や家族様とカンファレンスを行い話し合いをしている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族様とも話し合いをし、本人様にとってよりよい暮らしができるよう、計画の見直しをしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	状態変化等があればその都度話し合いをしている。	/	/	○	体調が思わしくなく、不安な状態の折には、早急に母体法人の医師に受診・相談し、結果を見て話し合い、計画変更も行っている。伝達ノートに会議の内容を詳細に記録し、職員に回覧し、確認の印鑑をもらっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	気付いた事や思った事は積極的に話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	可能な限り多くの職員が参加している。開催日の調整も行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	話し合いで決まった事などは申し送り、伝達ノートに記入している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	毎日申し送りをし、昼礼時伝達し、話し合いしている。	/	/	○	毎日の申し送りは不在の職員にも伝わるよう職員が連携し、情報に漏れのないよう職員全員で取り組んでいる。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	変わったことなどは伝達ノートに記入し、出勤時に確認している。	○	/	/	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	したいことを聞いたり、提案したりしながら、希望に添えるようにしている。	/	/	/	利用者には自己決定できる機会を設けている。職員は利用者一人ひとりが楽しみなことや食べたいもの、趣味などを話しやすいような声かけや雰囲気づくりをしており、家族の協力により編み物などをしている利用者もいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できる利用者様にはしてもらい、難しい利用者様も声かけ等行い、一緒に選んでいる。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	希望をあまり言われない利用者様には声をかけ、できるだけ希望に添えるようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人様のペースで生活できるよう、思いを汲み取りながらケアしている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔や声かけに気をつけて、明るい雰囲気作りを心がけている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	日頃から声かけ、観察をし、本人さまのいこうにそえるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人生の先輩であることを認識し、思いやりを持って接している。利用者様のプライバシーには誠意を持って対応している。	○	◎	○	併設の老人保健施設にて毎月勉強会があり、テーマに人権・尊厳もある。利用者とのかかわり方やトイレ誘導など尊厳を守りながら人生の先輩として敬っている。失禁時には「こちらに来てもらっていいですか」とさりげなく声かけし、トイレ誘導している。一人の時間を大切にしている空間へ入る時には、ノックを心がけている。入口が開いている折には、優しく声かけするなど心配りしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	日頃より利用者様の思いを理解するよう心がけ、表情やしぐさなどを見て思いが伝えられるよう支援している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者様一人ひとりに応じた配慮をして、特に入浴中・排泄などは個々の希望に配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室にて自由に心地よく過ごしていただける時間も大切にして見守っている。居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者様の個人情報、プライバシーを尊重し、誠意を持って対応している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事等を一緒に行うことで協力の輪が広がり、達成感充実を図り、感謝の言葉を伝える事で、穏やかに過ごされる。	/	/	/	利用者の席順はいつも配慮しトラブルも少ない。気の合う同士会話の弾む関係が続けられるよう見守っている。落ち着かない利用者にも別の利用者がアドバイスし、和やかになることも多い。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様を自分の家族と思い「人生の先輩」として家庭的な関係を築いている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	アセスメントを行い把握し、コミュニケーションをとり、本人様の思いを察知し精神安定に努め、又、時・場所も考慮しながら全職員が利用者様一人ひとりの意向を把握できるように努めている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	○	仲直りするように職員が間に入り、本人様の思いを察知し、精神安定に努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	一人ひとりに変化や状況を個別記録に具体的に記録し、状態変化があればその都度見直ししている。	/	/	/	/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	これまでの暮らしを把握し、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族様に協力して頂き、馴染みの関係が途切れないようにしつつ、良い関係が築けるよう支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	本人様が希望される場所にドライブしたり、一緒に外出するなど、家族様やご友人との関わりが途切れないように支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	本人様の希望を把握し、家族・地域の人々とも協力しながら出かけられるよう支援している。	○	△	○	散歩は勿論、季節や利用者の体調に合わせて外食したり、月2回行きたかったところへドライブしている。車いすで散策し、田園の今は稲の成長を楽しみにしながら、風景の移り変わりに四季を楽しんでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	利用者様が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、日常的に交流している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	共有空間は明るく開放感があり、季節の花が飾られ、落ち着いたのどかな風景を見渡することができる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	近隣の国分寺、綱敷天満宮等の地祭や自治会に参加し、小学生の見守り隊も行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者様の話を傾聴したり、本人様の生活歴を理解することで、不安を取り除くよう声かけし、寄り添ったケアを実践している。	/	/	/	料理の盛り付けの見本を見ながら手伝ったり、テーブルの上の片づけ、洗い物の補助、大根おろしなど、利用者ができるときにできることを行っている。タオルをたたんでくれる男性利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	下肢筋力低下防止の為、日々体操や個別リハビリ等の実施と、毎食前には嚥下体操をし、維持向上が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できる事、できない事の見極めをし、利用者様ごとに合ったケアプランにあげている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	希望を言われない利用者様にも、日常の会話から行きたい場所を聞き、行けるようにしている。	/	/	/	椅子に座ってなら手伝うことができる人、立位の状態が可能な人など一人ひとりに合わせ役割や出番を作っている。洗濯物を干す作業、小学生の下校時の見守りなど役割を楽しんでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	毎朝、体操の時間を設けてあり、意欲的に参加されている。又、毎日の散歩は日課となっており、小学生の下校時の見守りも楽しみにされている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	交流があったときは笑顔で喜ばれており、保育園等の行事にも、希望された方は参加している。	/	/	/	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	衣服の着替えについては、利用者様と共に確認して好みに合わせている。	/	/	/	服装は一人ひとり自慢のものを、髭剃りは本人ができるところまで頑張し、仕上げは職員が行っている。食べこぼしや歯磨き後の口の周りの手入れも優しくさりげなく行っている。介助は必要だが座位が保たれているので、寝たきりの利用者はおらず、日々さっぱりとした髪形や服装を保っている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに合わせて整えられるように支援している。	△	衣服選びは家族様と共に相談し、本人様の好みに合わせ整えられるよう支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	鏡を見ること、髪を整えること等、姿の意識付けができるよう声かけをし、意欲が出るよう努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人様、家族様の意見を十分伺い話し合い、その人らしい服装の助言をし、楽しめるように支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の髪型、着衣などに乱れはなく、さっぱりとした普段着で過ごされている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族様が行きつけの理容室に連れて行かれたり、希望者は月2回の利用の便宜を図っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人らしい身だしなみができるように支援し、満足感が得られるように努めている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	個々に合った食事形態で提供し、満足した食事ができるようにしている。	/	/	/	利用者の要望が叶えられた献立を母体法人の管理栄養士が作成しており好評である。調理の手伝いや後片付けなどできることをできるときにみんなで助け合っている。湯飲みや茶碗など、使い慣れた食器を使用している。介助が必要な場合でも職員が寄り添い、楽しい食事のひと時を過ごしてもらうようさりげなくサポートしている。嗜好を盛り込み季節感あふれるバランスのいい献立となっており、利用者は食事の時間を心待ちにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	毎月の食事会のメニューを利用者様と一緒に考えている。片付けなど、できることをしてもらって栄養士とも相談している。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	テーブル拭きや簡単な調理の手伝い等、できることをされている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者様の好みを聞いており、職員各自把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	同じメニューが続くことなく、バランスの良い献立になっている。関連施設の管理栄養士からの意見を取り入れている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	利用者様の身体状態に合わせて、食事形態を変えて提供している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所するときに、以前使われていたものを持ってきていただいている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	入居者と介護スタッフが一緒に食事に着き、どの料理がおいしいかおしゃべりし、利用者様のペースに合わせている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	職員も同じ食事を囲み、同じ料理を食べている。	/	◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	法人の管理栄養士が献立をたてている。摂取量少ない方は声かけ介助している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの状態にあった調理をし、バランスの良い食事を提供している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	法人の管理栄養士が1日の摂取量を計算している。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材を3回分その都度もらい、衛生管理に努めている。手指消毒は、しっかり行っている。	/	/	/			
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後、口腔ケアを行っている。うまくできない方は介助している。	/	/	/	利用者からの訴えを聞き逃さないようにするほか、口腔内のチェックは、歯磨き時に磨き残しがないかなど、こまめに行っている。入れ歯は夜間洗浄液に浸すなど、衛生管理も丁寧に行っている。また痛みなどの訴えがあるときは家族に報告するとともに、場合によっては歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	漏れがないように、気がついたらすぐに職員と共有している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯茎の状態など、歯科衛生士より助言を頂き、活用している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、一人ひとり声かけ見守り介助し、口腔ケアを実施している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯科衛生士による個別口腔ケアを定期的に行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	何かあれば、本人や家族様と連携のもと、指定の歯科医の受診を勧めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	早めのトイレの声かけ等を行いながら、トイレで排泄できるようにして、十分な心遣いをしている。	/	/	/	トイレでの排泄が基本で、利用者全員の排泄パターンを把握し、利用者の様子や時間を見て声かけをするなど工夫している。利用者に応じて布パンツや紙パンツの対応をするなど、一人ひとりに合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	食事や水分補給、適度な運動と活動的な日常生活を行っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄のリズムを把握している。トイレへ行かれたらケア実施記録に記入している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々のレベルに合わせてながら、トイレで排泄できるよう声かけている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	夜間も訴えや声かけをし、トイレ誘導・介助を行っている。自立に向けた取り組みをしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	自然に排泄できるように、個々のパターンを把握している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量など、職員が把握し、各自で行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	状態に合わせて、排泄チェックをしている。日中・夜間でバットの大きさを変えている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	毎日規則正しく生活をし、適度な飲食物を摂っている。排泄のリズムも分かるが、利用者様全員とはうまくいかない。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	2日に1度の入浴が基本で、温度は毎回測っている。希望に添えるよう努めている。	◎	/	◎	入浴は週3回を基本とし、温度や時間など、利用者にあった支援に努めている。入浴を嫌がる場合は、担当を変えたり声かけのタイミングをずらすなど職員同士が連携し、利用者全員入浴できるように支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	リラックスした気分になれるように心がけている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ゆったりした時間設定になっている。更衣・洗身など、できる事は自分でしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	個々のペースに合った入浴を行い、職員とコミュニケーションをとりながら、楽しく入浴している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝、バイタルチェックを行い、健康面に気を使っている。	/	/	/	
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	1日の流れの中、利用者様の体調や気分を把握している。入眠状況や時間を記録している。	/	/	/	散歩の時間を増やすなど、日中の活動時間を増やし、利用者にはなるべく体を動かしてもらえよう努めている。また医師から全面的な協力を得ていつでも相談できる体制が整っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中はなるべく季節感を味わえる散歩・レクにより気分転換を図っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	体調の良い日には、散歩・中庭の季節の草花の観賞、日光浴をされたりして楽しませている。日中、家事・洗濯・掃除を行って活動時間を増やしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様の体調に合わせて休息している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	家族様より郵便が届くと、お礼の電話をされ、電話にてお話されている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	家族様や大切な人に、本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ステーション内の電話で、申し出があれば電話できるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	訴えがあれば電話をすることを伝えている。家族への協力もしてもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	利用者様に応じて対応している。お金の管理は、買物等一時的に事務所で行っている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	必要物品は家族様が購入されている。買物・行事等、一時的に家族と連携して預かっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	週1回パン屋さんが来られ、好きなパンを選び購入されている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	小遣いは事務所で一時的に預かっている。必要なときは事務所で対応している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様面会時に小遣いの使い方について報告している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	日常の小遣い管理はしていないが、希望により買物に行く時、当日家族様より預かって収支は家族様へ渡して報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	隣接の介護老人保健施設との交流により、柔軟な援助を行っている。	◎	/	○	多様なニーズにもできる限り対応するよう取り組んでおり、今後とも柔軟な支援に努めていく方針である。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	畳に座って日光浴したり、中庭の草花を見て楽しめる。	◎	◎	○	車いす等利用の場合でも出入りしやすいよう、玄関も含めバリアフリー化されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	台所からリビングルームが見渡せ、外を眺めれば田園風景が見られ、心地よい空間となっている。	○	○	○	天井が高く明るく広々とした空間があり、ゆったり落ち着いた気分になり、ずっとここで過ごしたい気持ちになる。リビングからキッチンを見渡すことができ、調理の様子や音、においなどは利用者にとって心地よい刺激になっている。トイレは利用者目線でわかりやすく表示されており、事業所としての優しさが伺える。清掃がすみずみまで行き届いており気持ちがよく清潔感が感じられる。壁面には季節感あふれる飾りつけがされ、家族など面会者の心を和ませてくれる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は行き届いており、居心地の良い場所である。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節感を感じる壁画作りで生活空間を楽しまれている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	△	仲の良い気の合う同士話し合える場所作りをしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間からトイレや浴室は離れていて、直接見ることはない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族の写真など、大切な物を居室に飾り、心身ともに落ち着かれ、ゆったりとした時間を過ごされている。	◎	/	○	家族の写真など利用者にとって大切なものや植木鉢などが飾られ、利用者はもちろんのこと面会者も居心地良く過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室入り口には大きな目印を設置し、自分の部屋であると認識できるように工夫し、トイレの入り口にも目印を貼っている。	/	/	○	車いすでも不便さを感じないようバリアフリー化され、常に利用者の安全確保を第一に考えており、家族も安心して居る。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	本人様が不安と思うことは、混乱し失敗を招くのでやめている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者様の馴染みの物品に対して生活空間の中でさりげなく置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	居室やユニットの鍵はかけることのないよう暮らしている。家族様にも同意してもらって一時的に安全管理の維持をする場合がある。	◎	◎	◎	法人全体の研修等で、鍵をかけないケアの取組みについて理解を深め、管理者はじめ職員全員で共有し日頃の業務に生かしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	自由に暮らして頂く為に鍵をできるだけかけずに安全確保に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	利用者様の行動を把握し、心理的に圧迫しないよう、自由な暮らしを支援できるよう努めている。	/	/	/	
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに書いてある事を見て把握している。	/	/	/	/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者様一人ひとりの変化や状態を個別記録に具体的に記録し職員間で情報を共有している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	広瀬クリニック、広瀬病院との連携を図り、日常の健康管理をしている。24時間医療連携も可能な支援をしている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望のかかりつけ医とも連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	◎	/	/	/
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	協力医療機関も整っており、訪問診療も受けることができる。緊急時の対応が確保されている安心感もある。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	体調変化があればその都度本人様・家族様と十分話し合い、説明しながら方針を共有している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には本人様の情報を明確に分かるよう、サマリーを記入している。	/	/	/	/
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中も主治医と連携し、早期退院に向けて話し合い、家族様とも相談し協力している。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	他部署との連携を普段からとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護との連携を図り、日常の健康管理をしている。協力医療機関も整っており、緊急時の対応も確保できている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護、広瀬クリニック、在宅支援診療所との連携を行い、24時間医療連携可能な支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	月に2回訪問診療を実施しており、早期発見・治療ができています。毎朝バイタル測定を行っている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋をファイルに残し、内容を確認した上で服薬支援を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れや誤薬を防ぐため、複数の目で常に確認し、服薬前には名前・日付等を声に出して確認している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	医師の指示、屯内服の内容を全職員が把握し、状態の変化や食欲の低下、排便チェックを行っている。常々かかりつけ医等連携をとって確認している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人様の状態の経過や変化を常にカルテに記録し、家族様や医師に状態報告している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時、説明を行い意向を伺っている。また、体調変化があればその都度、本人様・家族様と十分に話し合いながら、方針の共有を図っている。	/	/	/	「看取り介護に関する指針」における看取り介護の基本理念等に基づき、24時間医療連携体制のもと看取りが行われており家族も安心である。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	広瀬クリニック、在宅支援診療所、訪問看護と連携し、方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	看取り介護に関する方針を作成し、マニュアルに添って行えるようにしている。又、かかりつけ医との連携24時間対応している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	24時間医療連携可能な体制を整えており、お互いが情報を共有し、今後の検討や準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	面会時に家族様としっかり話をする等し、家族様への対応を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	月に2回老健での勉強会に参加したり、外部研修に参加している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対するマニュアルを作成しており、マニュアルに沿った対応が出来るよう職員が把握している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	広瀬クリニックから感染症流行の情報や、メディアからの情報をチェックする等している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時にはマニュアルに添って対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	毎日食事やおやつ前には手指消毒を実施し、来訪者へは手指消毒とマスク着用等のお願いをしている。	/	/	/	
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様とのコミュニケーションを多くとることで、家族との信頼関係を築いている。	/	/	/	多くの家族が参加できるように花見や文化祭などの行事案内を送っている。事業所から家族に電話を入れて、利用者の状況を伝えたり、家族からの手紙に対し電話で返事するなどの対応をしている。今後は、家族一人ひとりに運営推進会議の要点を伝達したり、職員の異動や退職等についての報告の対応も望まれる。職員は素直で明るく思いやりがあり、家族の面会時には進んで声かけをしたり、業務にひたむきに取り組むなど、利用者への対処も積極的である。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	△	家族様が訪れやすい環境づくりを行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	毎月の行事の案内を行ったり、お花見等一緒に参加する行事も実施している。	○	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	面会時には最近の様子等を報告し、ヒロセだよりの発行を3ヶ月に1回行い、行事での様子や写真を紹介している。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時等に、知りたいこと、不安なことがないか確認をし、把握した上で行っている。常に家族様と連携している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	△	本人様・家族様の思いを大切にしながら、どのような支援をしていくかなど十分相談し、支援を行っているが、家族様が来れない場合もある。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	2ヶ月に1回運営推進会議にて状況報告し、理解を得るよう努めている。面会時にも報告している。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	○	月1回家族会を実施し、行事等を通じて交流する機会を提供している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入居相談や契約時にきちんと説明し、理解を得た上で支援内容等話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族様より意見・希望がある場合、口頭で行っているが、玄関先には意見箱を設置し、面会には積極的に会話をする等して相談しやすい環境を作っている。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明・理解を得ている。変更あれば、その都度伝える。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去時は家族の意向も踏まえ、話し合い、退去されている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金表を提示し、同意を得ている。	/	/	/	
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	事業所の目的や役割を説明する機会はあまりないが、地域交流はしている。	/	◎	/	地元の保育園の夏祭りや婦人会の納涼祭、公民館の文化祭に出向いたり、七夕会では園児と一緒に楽しい時間を過ごすなど、地域の行事にも積極的に参加しつながりも強固である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	外気浴を行い、その際地域の方と挨拶をしたり、小学生の見守りなどを行っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	散歩時に声を掛けてくれる方はいるが、増えているかわからない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	外のベンチに座り、話したりされることもたまにある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常のお付き合いはあまり出来てないが、挨拶をしたりされている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方が隣の施設で踊ったりされるため、一緒に参加されている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	利用者様一人一人が豊かに楽しく暮せるよう努力している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の文化祭に参加したり、近隣の施設との協力できるような努力している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加できている。	x	/	○	一人でも多く家族に参加してもらえるような開催日程等を検討するなど、参加者増への取組みは積極的である。会議では外部評価の実施結果等について報告を行い、貴重な意見として日々のサービス向上に生かせるよう努めている。運営推進会議のおかげで地域のことがよくわかり、協力も得られやすくなるなど、いい傾向が見られ今後も地域の方の会議への参加促進を考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価や取り組みについて報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議中は他の人の意見をしっかりと聞き、疑問に思ふ点等については質問し、サービスの向上に努めるよう心がけている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	あらかじめ第3水曜日と決め、出席しやすいようにしている。担当者の公的行事がある場合は調整することもある。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録皆が見れるようにファイルにはせている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	『相手を思いやる「和」の心で「誠意」をもって接する』理念のもと、朝礼・昼礼時にグループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を唱和し、利用者様の思いを大切にしながら家庭的な雰囲気できちんと支援している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	グループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を掲げ、家庭的で気持ちの良い暮らしが出来るよう支援しているが、あまり伝わっていない。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	把握できるだけしている。研修はあまりされていない。				メンタル的な研修も定期的開催し、職員のストレスの軽減に努め、職員は特に大きなストレスはなく、職場環境もよく配慮され働きやすい職場である。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	計画的に研修に参加し、職場での経験を活かしつつスキルアップを計っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	日々向上心を持ち、勤務状況や給与水準を理解し仕事が出来ている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	勉強会や研修に参加することで、興味・関心を持ち向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	負担の無い勤務状態を作り、ストレスのない環境を作れている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	利用者様に対して気持ちの良い適切なケアが出来るよう心がけている。				職員同士、お互いを高めあい切磋琢磨して連携もよく取れており、日頃の業務で気になった言葉違いや不適切なケアなど気になることがあった場合は、遠慮なくいい合える関係で、利用者本位のケアができるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	申し送り時や朝礼でケアについて振り返り、よく話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日頃から利用者様のことを一番と考え、虐待や不適切なケアがない様、職員間で声かけし注意している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員・利用者様が気持ちよく生活が送れるよう心がけている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	禁止行為については理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	拘束はしないように話し合い、利用者様の思いを尊重している。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族様には入居時にあらかじめ、拘束や施錠についての説明を行い、理解を得てもらえるようお願いしている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見制度等利用している方はいないが、理解はある程度している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	制度について話したり情報交換することはほとんどないが、相談にはのる。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	相談があれば制度が利用できるように努力する。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故発生時等、緊急時対応マニュアルを作成しており周知もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会を開催し、定期的に意識付けや訓練を行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットにおいてもレベル1・2と段階を設定し、内容を検討し、対策をパソコンに入力し職員間での情報共有を図り、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月1回のミーティング、毎日の朝礼時等に一人一人の状態把握に努め、必要に応じリスクについて話し合い事故防止につなげている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成しており、職員も理解している。苦情があれば迅速に対応し議事録にまとめ、周知している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	迅速かつ適正に対応するように受付窓口を設置し、相談担当者が処理にあたり手順に沿って対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談担当者が責任を持って問題点を把握・検討し、結果を迅速に報告し、理解が得られるよう努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、利用者様の参加を得ている。	/	/	○	3か月に1回アセスメントを行い、不安なことや何かしたいこと、食べたいものはないかなど、利用者一人ひとりの要望を取り入れている。年に1回のアンケート結果から得られる家族の意見も大切に職員間で話し合い共有しており、面会時は気持ちよく話してもらえるよう気配りしている。管理者は職員一人ひとりに声をかけたり、時には職員が個人的に提案してくることもあるなど、職員の意見等は積極的に取り入れ事業所の運営等に生かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し家族様の参加を得ている。意見箱を設置している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	フロア(居室)の壁に市社協・市役所・国保連の電話番号を分かりやすく掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	介護老人保健施設との合同ミーティングを月1回開催し、意見交換を行っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	合同ミーティング後にグループホーム独自のミーティングを開催し、意見交換を行い利用者様本位の支援につなげている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年2回全員が自己を省みて、自己評価表に記載し提出している。	/	/	/	運営推進会議に出席経験のある家族の中には、「今頃どんなの？」と気にして聞いてこられる方もいる。今後良いところは継続し、改善すべきところは改善するなど、外部評価結果を事業所の運営に生かせるよう努力を重ねる予定であり今後の取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価をまとめ、全体を把握し合同ミーティング等で意識統一に活かしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を踏まえてより一層の向上を目指し、目標達成計画を作成し、取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果とそれに基づいた目標達成計画を作成し、取り組んでいる。	/	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画内容に基づく取り組みや成果を確認している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	大規模災害時対応マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	地域住民の参加を得て避難訓練を実施しており、消防署とのつながりも深く、法人の施設が隣にあるため連携もできている。今後は運営推進会議の参加者に事業所内の視察をしてもらい、避難時の対応がスムーズにできるよう進めていく方針であり実践に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回、日中・夜間を想定し計画を立て訓練を行っている。又、実践に沿って行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備の点検、避難経路に障害物等ないか確認し、非常食・備品の点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議開催時に避難訓練を実施し、参加者様と一緒に協力体制確保できている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した共同訓練を行い、地域の災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議において情報発信を行えている。	/	/	/	地域住民には、事業所が高齢者の相談支援をしていることが周知され、法人の支援相談員とともに相談に応じている。小学生の職場体験や春祭りには神輿や獅子舞が来てくれたり、地元の保育園の運動会の見学や草引きや剪定のボランティアを受け入れるほか、敬老会で保育園児と交流するなど、地域との連携は強固である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談・支援行っている。関連施設、老健支援相談員と地域連携している。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	隣接する老人保健施設と合同で行事を開催し、地域の人々に施設を開放している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	介護者養成教育のために実習生の受け入れに協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	地方祭や文化祭に参加したり、保育所とも交流があり地域活動を協働し行っている。	/	/	◎	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年9月7日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数)
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870201179
事業所名	グループホームヒロセ
(ユニット名)	つつじ
記入者(管理者)	
氏名	渡辺 優紀
自己評価作成日	平成 29年 8月 15日

(別表第1の2)

【事業所理念】 相手を思いやる「和」の心と利用者様に「誠意」をもって接する	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議が家族代表者の負担にならないよう、職員も関わりながら家族会を行うよう取り組んだ。家族間のみでの話し合いはほとんど出来ていない為、面会時等に、家族様同士で会話できるよう声かけをしている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 母体の医療法人の安心と信頼のネットワーク体制を活かし「和の心」と「誠意」をもって支援している。利用者の生活には潤いと安らぎが保たれ、日々和やかに笑顔いっぱい過ごしている。明るく素直で物事に真摯に取り組む職員は、利用者一人ひとりの思いを大切に自主性を守りながら支援している。利用者を人生の先輩として思いやり接している職員の所作は優しく、利用者からは感謝の言葉ももらうなど利用者職員は良好な関係が継続している。
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	意思疎通の難しい利用者様には、表情や動作により思いに添うようにしている。	○	/	○	利用者の思いや暮らし方が記録された「気持ちシート」を活用し、利用者に寄り添い利用者本位の支援につなげることができるよう、日頃の生活の様子を見落としがないよう注意し観察に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	その人らしく生きるという事を家族様に確認しつつ検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族様の面会時には、利用者様の習慣などその都度確認している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	申し送りなどで共有化はしているが、記録は断片的な場合がある。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で意見交換して、個人の思い込みにならないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に本人様や家族様に、馴染みの暮らし方を聞き記録している。	/	/	○	家族から入居前の生活歴やこだわりなど、詳しく聞き取り「気持ちシート」に残している。大切なアルバムなど利用者の思い出の品々や馴染みのある懐かしい場所などを日頃のかかわりの中から聞くことに努め、利用者の意向に沿った支援に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	声かけやジェスチャーにより、出来る事の確認をしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	職員の申し送りなどで、全員が理解できるように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不穏時の原因については、職員間で随時、話し合いをしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	記録と共に変化については申し送りにて、共有に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	変化ある時は、随時職員間のみでアセスメントする事が多い。	/	/	○	利用者の状態はささいなことを見逃さないよう常に見守っている。変化が見られた場合は、家族と話し合う機会を設けており、カンファレンスで検討し利用者一人ひとりにあったケアに努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人様の言葉や動作を確認し、体調については医療関係者に報告・相談している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	個々に応じて出来る事を支援するよう努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様や家族様の意向を取り入れた計画となっている。	/	/	/	朝、昼、夕方の申し送り時には、職員間で意見交換しており、内容によっては家族と話し合う機会を設けているほか、月1回のカンファレンスで議題に掲げ、よりよい介護計画の作成に職員全員で取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	申し送り時に意見交換をして、必要時には家族様などに確認をしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	介護計画に、本人様の声を取り入れるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	運営推進委員会にて、地域の人に意見を聞き向上に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	記録にて職員間共有出来るように努めている。	/	/	○	サービス計画書を職員全員で共有しており、職員がいつでも対処できるようにしている。利用者については、昨日と違うことなど事細かく記録しており、それをもとに支援方法を考えている。利用者の言葉・表情・状況その対応について個別ケース記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	申し送りと共に記録確認が出来るよう努めている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録はしている。内容の詳細が伴っていない時もある。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の気づきを記入して計画に生かすようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月毎に見直しをしている。	/	/	○	状態変化が特になければ、基本は3か月に1回の見直しを行っている。家族が遠方の方は、電話にて状況を知らせ、意見を聞いている。毎月1回のカンファレンスで、家族も交え話し合っている。常に利用者の変化を把握し、随時アセスメントし家族にも連絡し、検討し、見直し、一人ひとりにふさわしい計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月1回カンファレンスを行い、確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	計画が現状にそぐわない時は、期間変更し新たに作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	医療関係者も含め、個々の状況把握に努めている。	/	/	○	体調が思わしくなく、不安な状態の折には、早急に母体法人の医師に受診・相談し、結果を見て話し合い、計画変更もしている。伝達ノートに会議の内容を詳細に記録し、職員に回覧し、確認の印鑑をもらっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	定期的な会議や必要に応じた会議で自由な意見交換している。	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月日を決めて、当日の職員が多く参加できるようにしている。	/	/	○	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録者により、情報を共有出来るようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	時間も決め、1日3回の申し送りをしている。	/	/	○	毎日の申し送りは不在の職員にも伝わるよう職員が連携し、情報に漏れのないよう職員全員で取り組んでいる。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	当日出勤してなくても、申し送りと記録で把握に努めている。又、Webの活用もしている。	○	/	○	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声かけにて希望を確認し、レクや散歩をしている。	/	/	/	利用者には自己決定できる機会を設けている。職員は利用者一人ひとりが楽しみなことや食べたいもの、趣味などを話しやすいような声かけや雰囲気づくりをしており、家族の協力により編み物などをする利用者もいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	食後の休憩等は声かけにより、意思決定を促している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個別の思いを支援できるよう、声かけや表情等の確認をしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースに応じたケアを行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	意思疎通が難しい時も、笑顔になれるよう声かけをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	一つ一つの言葉を笑顔にて行い、笑顔を引き出せるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者様のプライバシーを尊重し、声かけや態度には常に気をつけている。	○	◎	○	併設の老人保健施設にて毎月勉強会があり、テーマに人権・尊厳もある。利用者とのかかわり方やトイレ誘導など尊厳を守りながら人生の先輩として敬っている。失禁時には「こちらに来てもらっていいですか」とさりげなく声かけし、トイレ誘導している。一人の時間を大切にしている空間へ入る時には、ノックを心がけている。入口が開いている折には、優しく声かけするなど心配りしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者様一人ひとりに対し、その人にあつさりげない言葉遣いで対応している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時や入浴時、プライバシーに配慮し男性職員を拒否される方に対しては女性職員で対応している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入りなど、声かけするよう心がけている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者様のプライバシーに対して、理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩であり、助けてもらったり教えてもらったりして感謝し合っている。	/	/	/	利用者の席順はいつも配慮しトラブルも少ない。気の合う同士会話の弾む関係が続けられるよう見守っている。落ち着かない利用者に別の利用者がアドバイスし、和やかになることも多い。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員・利用者様同士、支え合っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者様同士の関わりを大切に、仲の良い利用者様同士交わる機会を作っている。又、入居者様の交流にも配慮し、声かけをしてお互いが和やかな空間づくりもしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様同士のトラブルはあまりないが、その時には職員が間に入って解消している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	利用者様本人の周りの関係も把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者様の馴染みの場所など把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの関係や場所が途切れないよう、家族様とも相談し、外出・外泊などの機会を持つようにしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	馴染みの人たちが、いつでも気軽に面会できるように配慮している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外食やドライブレク等毎月行い、積極的に戸外に出て過ごすようにしている。	○	△	○	散歩は勿論、季節や利用者の体調に合わせて外食したり、月2回行きたかったところへドライブしている。車いすで散策し、田園の今は稲の成長を楽しみにしながら、風景の移り変わりに四季を楽しんでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	施設の職員のみで外出を行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者様もリフト車を利用して、戸外に出るよう支援している。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	出来る限り希望を聞き、行きたい場所へ行けるよう支援している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の勉強会などに参加し、利用者様を理解しケアを行っている。				料理の盛り付けの見本を見ながら手伝ったり、テーブルの上の片づけ、洗い物の補助、大根おろしなど、利用者ができるときにできることを行っている。タオルをたたんでくれる男性利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	機能低下しないよう、体操や生活リハを取り入れ、取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	家族様と相談し、出来る事へのプログラムを立て、見守って行えるよう支援している。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	何をすれば本人様が一番楽しいかを考えて支援している。				椅子に座ってなら手伝えることができる人、立位の状態が可能な人など一人ひとりに合わせ役割や出番を作っている。洗濯物を干す作業、小学生の下校時の見守りなど役割を楽しんでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来る事への役割分担を考えて取り組んでいる。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域で行う祭りや文化祭などに出席するよう支援している。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者様の好みの服を選び、おしゃれをしている。				服装は一人ひとり自慢のものを、髭剃りは本人ができるところまで頑張り、仕上げは職員が行っている。食べこぼしや歯磨き後の口の周りの手入れも優しくさりげなく行っている。介助は必要だが座位が保たれているので、寝たきりの利用者はおらず、日々さっぱりとした髪形や服装を保っている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	本人様の希望に応じて、服装や持ち物など家族様に相談している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	本人様の気持ちを伺いアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や行事の時には、その人に合った服装で行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容の乱れには配慮している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人様の希望に添うよう支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態でも、身だしなみには気をつけている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	毎食何を作るのか献立を掲示し、利用者様へ分かりやすくし、食事作りに参加して意欲を持たせている。	/	/	/	利用者の要望が叶えられた献立を母体法人の管理栄養士が作成しており好評である。調理の手伝いや後片付けなどできることをできるときにみんなで助け合っている。湯飲みや茶碗など、使い慣れた食器を使用している。介助が必要な場合でも職員が寄り添い、楽しい食事のひと時を過ごしてもらうようさりげなくサポートしている。嗜好を盛り込み季節感あふれるバランスのいい献立となっており、利用者は食事の時間を心待ちにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	法人栄養士の作成した献立により調理している。月一回の食事会の献立は、利用者様の好みで選び、買い物や調理後の片付け等、利用者様と共に行っている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	個々の利用者様の力に合わせて、買い物・調理・盛り付け・後片付けをされている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	苦手なものも少しでも食が進むよう、盛り付けや食べやすい形状にしたりなど意欲を持たせている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	法人栄養士が献立を作成している。季節や行事にあった献立になっており、楽しみながら食事をされている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	食べやすくカットし、柔らかく煮るなどして個々の状態に合わせ工夫している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	お碗・茶碗・コップ・箸は、個人の物を使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒にテーブルを囲み、箸を止めている利用者様にさりげなく声をかけたり、様子を見守りながらサポートを行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	目が見えにくい利用者様にも、食事前のテーブル拭きや手指消毒など声かけする事で、心の準備ができています。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人ひとりの体型や年齢に応じて食事量や水分量を把握し、記録している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	盛り付けを工夫したり、家族様に連絡をし、好みのジュースや食べ物で対応することもある。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	毎月の食事会では、利用者様の希望を取り入れつつ、バランスの良いメニューを考えて作成されている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いや手指消毒に努め、食材はその都度使い切り、調理している。	/	/	/	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食事前の嚥下体操や食後の口腔ケアを行い、誤嚥防止に努めている。	/	/	/	利用者からの訴えを聞き逃さないようにするほか、口腔内のチェックは、歯磨き時に磨き残しがないかなど、こまめに行っている。入れ歯は夜間洗浄液に浸すなど、衛生管理も丁寧に行っている。また痛みなどの訴えがあるときは家族に報告するとともに、場合によっては歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔清掃時や食事の様子など、声かけを行い把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	本人様・家族様の意向に添って、定期的に歯科衛生士による口腔清掃の指導がある。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後の口腔ケア時には、見守り介助をしている。就寝時には、義歯の洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後に時間をかけ口腔ケアしており、見守り・声かけにて介助を行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内のトラブルがあれば、本人様・家族様の意向に添って訪問歯科での往診を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	布パンツから紙パンツに変える場合、利用者様やご家族様に説明し理解をもらえている。				トイレでの排泄が基本で、利用者全員の排泄パターンを把握し、利用者の様子や時間を見て声かけをするなど工夫している。利用者に応じて布パンツや紙パンツの対応をするなど、一人ひとりに合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘になると不穏状態が続いたり、不眠の原因になることもあることを全職員理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表により、一人一人の排泄リズムを把握し活用している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	車椅子の方でも座位が維持できれば、トイレでの排泄を促すなど、トイレでの自然排泄を大切に、オムツだけに頼らないよう意識して支援している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄がない場合、水分摂取・散歩などの適宜な運動、個々に合った下剤など、主治医と相談しながら排便のコントロールを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	他の利用者様に配慮しながら、声かけや誘導を行い、排泄の失敗が無いように心がけている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	夜間のみ紙パンツ使用するなど、個々の状態に合わせている。本人様で紙パンツやパットを交換される場合は使用後の回収をさりげなく行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	布パンツだけの方、尿漏れパンツにパットの方など、個々の状態に合わせている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食べやすく柔らかく調理している。腹圧マッサージを行ったり、水分補給の声かけなど取り組んでいる。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週3回、午後からの入浴になっているが、体調面にも注意し、一人ひとりに声かけを行い、良いタイミングで入浴できるよう心がけている。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	マンツーマンで入浴を行い、出来る限り湯船で温まれるよう支援している。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	本人様が洗身出来る場所は見守り、その他は介助を行っている。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			○	歌を唄ったり、さりげなく声かけする事で気持ちよく入浴できている。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			◎	声かけや様子観察により、その日の体調を把握し、無理強いせず入浴が行えている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の睡眠の状態を、申し送りや記録から把握できている。				散歩の時間を増やすなど、日中の活動時間を増やし、利用者にはなるべく体を動かしてもらえよう努めている。また医師から全面的な協力を得ていつでも相談できる体制が整っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	午前中に、立位リハビリ体操やレクリエーション・散歩など、活動できるように1日の流れを行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間、不穏になり不眠になる利用者様には訪問診療時に相談をしている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人様の体調に合わせ休息の声かけを行い、好みの所で休息が取れている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	本人様の希望に出来るだけ添えるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人様の能力に応じて、必要な支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	他の利用者様への気兼ねなく電話できるよう配慮している。別の場所に移動もして頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	職員も声かけし、返信したり、面会時には受け取りましたとの事を伝えられるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	契約時に家族様への説明をしており、理解・協力を得ている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	利用者様にに応じて対応している。お金の管理は買物など一時的に事務所で行っている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望や能力に応じて、週1回パンを購入していただく機会を作っ	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	毎月、買い物の日を設け、希望や能力に応じて実施している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	本人様の希望・能力に応じてトラブルの無いよう支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	契約時に、本人様・家族様にお伝えし承せて頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	日常の小遣いは管理していないが、希望により買物に行く時、家族様より預かり家族様へ収支報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人様・家族様の希望・状況に対し、臨機応変に取り組んでいる。	◎	/	○	多様なニーズにもできる限り対応するよう取り組んでおり、今後とも柔軟な支援に努めていく方針である。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	利用者様・家族様他、出入りがしやすいよう入り口の段差をなくし、車イスの方でも出入りしやすいようにしている。	◎	◎	○	車いす等利用の場合でも出入りしやすいよう、玄関も含めバリアフリー化されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	置コーナーで休憩して頂けるようにしたり、テレビ・DVDを観て過ごせるようにしている。季節に応じた飾りつけ利用者様と共に行うようにしている。	/	/	○	天井が高く明るく広々とした空間があり、ゆったり落ち着いた気分になり、ずっとここで過ごしたい気持ちになる。リビングからキッチンを見渡すことができ、調理の様子や音、においなどは利用者にとって心地よい刺激になっている。トイレは利用者目線でわかりやすく表示されており、事業所としての優しさが伺える。清掃がすみずみまで行き届いており気持ちがよく清潔感が感じられる。壁面には季節感あふれる飾りつけがされ、家族など面会者の心を和ませてくれる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日差しが強い場合には、カーテンをしたり、毎日掃除を行い、不快感の無いように努めている。	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	窓辺にイスを並べて、中庭の季節の草花を觀賞していただけるようにしている。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者様の席を決めてしまわず、状況に応じて臨機応変に対応して、居心地の良い空間作りに努めている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間からトイレ、浴室の内部は見えないように、又、使用する場合は扉を閉めるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	お花を飾られたり、家族の写真を飾られたりすることで、心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	◎	/	○	家族の写真など利用者にとって大切なものや植木鉢などが飾られ、利用者はもちろんのこと面会者も居心地良く過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者様一人ひとりの「できること」「わかること」を職員が把握し、安全に生活できるよう、配慮し、支援している。	/	/	○	車いすでも不便さを感じないようにバリアフリー化され、常に利用者の安全確保を第一に考えており、家族も安心している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室に置くものは安全なものにし、本人様と家族様と職員も一緒に話し合い、配置の仕方を決めるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	家族様に雑誌を持参していただいたり、新聞をお渡しして読むことが出来るような工夫をしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全職員が利用者様の立場になってケアするよう、努めている。	◎	◎	◎	法人全体の研修等で、鍵をかけないケアの取組みについて理解を深め、管理者はじめ職員全員で共有し日頃の業務に生かしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約時に説明し、理解していただけるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者様が安全に安心して過ごせるよう見守り、支援している。	/	/	/	
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員は利用者様一人ひとりの病歴・現病等について把握するようにしている。	/	/	/	/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者様一人ひとりの体調変化に注意し、変化があった場合は必ず記録している。職員全員が把握できるようにしている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	体調変化、気になることがあれば、かかりつけ医・看護師に連絡し、重度化の防止に努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	契約時に今までの受療状況をお聞きし、出来るだけ家族様・本人様の希望に添えるよう支援している。	◎	/	/	/
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人様・家族様の希望をお聞きすると共に、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の仕方、受診結果の報告等、その都度必要に応じて、職員・家族様と話し合いを行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	普段の本人様の生活の様子等、主治医と連携し、安心して治療を受けられるように支援している。	/	/	/	/
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中も主治医との連携を図り、安心して治療を受けられるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	利用者様の体調変化があれば、必ず主治医に報告し、円滑な関係作りに努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護との連携を図り、日常の健康管理をしている。協力医療機関も整っている。かかりつけ医とも連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間医療連携し、可能な支援をしている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	広瀬クリニック・在宅支援診療所との連携も取れており、日常の健康管理をしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	受診時の医師の指示や内服の内容、処方された薬の説明書を全職員が目を通し、把握するようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個別の内服薬表を作成し、きちんと服用できるよう管理している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者様の排泄他体調変化に注意し、職員一人ひとりが把握するようにしている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	職員一人ひとりが薬の内容を把握し、利用者様に変化があれば、家族様・医師に報告している。協力病院と24時間連携している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	契約時、説明を行い意向を伺っている。体調変化があればその都度、本人様・家族様と十分に話し合い説明しながら方針を共有している。	/	/	/	「看取り介護に関する指針」における看取り介護の基本理念等に基づき、24時間医療連携体制のもと看取りが行われており家族も安心である。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族様、職員、医師、かかりつけ医との連携をとり、安心していただけるよう十分に話し合い情報を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	職員間で率直な話し合いを行い、状況を把握できるようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	職員間で率直な話し合いを繰り返し行い、家族様にも説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	契約時の本人様・家族様の意向に添った支援を行っている。職員、かかりつけ医との連携を図りながら支援するようにしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様には心理的支援の声かけを行い申し出てこられた家族様には心理的支援を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員は、定期的に勉強会を行い、マニュアルの確認も行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対応のマニュアルがあり、感染症が発生したときは医師に報告し、適切な対応・指示をもらうようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	広瀬クリニックからの連絡により、地域の感染予防に努めている。感染情報の提供してもらっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	広瀬クリニックの連絡の他、職員自ら対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は一処置一手洗い、うがいなどを行い、利用者様・家族様についても声かけ実施している。	/	/	/	
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者様・家族様の気持ちに寄り添ったケアに努めている。	/	/	/	多くの家族が参加できるよう花見や文化祭などの行事案内を送っている。事業所から家族に電話を入れて、利用者の状況を伝えたり、家族からの手紙に対し電話で返事するなどの対応をしている。今後は、家族一人ひとりに運営推進会議の要点を伝達したり、職員の異動や退職等についての報告の対応も望まれる。職員は素直で明るく思いやりがあり、家族の面会時には進んで声かけをしたり、業務にひたむきに取り組むなど、利用者への対応も積極的である。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様が面会に来やすい雰囲気作りに職員全員で取り組んでいる。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	納涼祭・文化祭他、家族様にも参加して頂けるよう声かけを行っている。	○	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的な報告や、体調変化があったときにも家族様に電話連絡をしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話連絡のときに、家族様の不安もお聞きするようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	職員全員が定期的に研修・勉強会に参加し、利用者様・家族様とのよりよい関係が築けるよう努めている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時に分かりやすく説明・報告し、理解していただけるよう努めている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事等の案内を行い、家族様同志の交流が図れるよう、声かけを行っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	利用者様が安全に穏やかに過ごすための話し合いは契約時に行い、又、入所後も変わったことがあった場合は報告し話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族様が気軽に意見を伝えたり、相談できる雰囲気作りに努めている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	具体的に分かりやすく説明を行い、納得や理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の理由を明確に伝え、退去後も利用者様や家族様が希望される場所へ移れるよう支援を行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居契約時に、料金の内訳を文章で示し、具体的に説明し同意を得ている。	/	/	/	
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	グループホームの役割を推進会議などで説明したり、理解を深めてもらっている。	/	◎	/	地元の保育園の夏祭りや婦人会の納涼祭、公民館の文化祭に出向いたり、七夕会では園児と一緒に楽しい時間を過ごすなど、地域の行事にも積極的に参加しつながりも強固である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	盆踊りやお祭り、文化祭など、地域の活動や行事へ積極的に参加し、地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	外出時などは介助をお手伝いしてもらったりすることがある。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	イベントや行事のときは遊びに来ていただいている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	通学や帰宅途中の見守りとして日頃より声を掛け合っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	慰問や訪問などに来てくださっており、利用者様に喜ばれている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の祭りや名産物に触れ、親しむことで、この地域で住んでいる生きがいを感じることが出来ている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	外食時や買い物・公民館・保育所などに出かけたり、イベントにも招待をしてくださったりしており、理解を深めてもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地区総代・民生委員・婦人会・市職員・利用者様・ご家族様の参加がある。	x	/	○	一人でも多く家族に参加してもらえるような開催日程等を検討するなど、参加者増への取組みは積極的である。会議では外部評価の実施結果等について報告を行い、貴重な意見として日々のサービス向上に生かせるよう努めている。運営推進会議のおかげで地域のことがよくわかり、協力も得られやすくなるなど、いい傾向が見られ今後も地域の方の会議への参加促進を考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	詳しく現状や取り組み、サービス向上についての報告を行えている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案等、日々の取り組みやサービス向上に活かせるよう努力している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間帯については、毎回決まっているが、状況に応じて変更できるよう配慮している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	公表できている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎朝、朝礼や昼礼時に唱和し「その人らしい生きがいのある心地よい今」を実践できるようにケアを行っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	HPやパンフレット、入居の際に伝えている。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内研修が毎月あり、積極的に参加している。法人外の研修も受けられるよう支援している。	/	/	/	メンタル的な研修も定期的開催し、職員のストレスの軽減に努め、職員は特に大きなストレスはなく、職場環境もよく配慮され働きやすい職場である。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	月1回の法人内の勉強会は積極的に参加してもらい、実践しながら説明を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各自が向上心を持って働けるような職場環境が整っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	今治市グループホーム交流会に参加し、研修の報告を通して、他の職員の意識向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	なんでも相談でき、何でもいえる雰囲気作りを行っている。定期的にストレスチェックも行っている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	職員全員が指示基準を正しく理解できており、拘束しないケアに努めている。	/	/	/	職員同士、お互いを高めあい切磋琢磨して連携もよく取れており、日頃の業務で気になった言葉遣いや不適切なケアなど気になることがあった場合は、遠慮なくいい合える関係で、利用者本位のケアができるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送り時や部署会などで事例を挙げ、話し合ったり意見を出し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアがないように努めている。少しでも適切でない場合は、都度説明しながら防止に努めている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	無理のないケアを行い、全員で個々に負担の無いように注意・配慮している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的な勉強会もあり、正しく理解されている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	状況をチーム全体で話し合い、拘束をしないで良いように提案している	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	生命の危機や危険行為ではない場合は、拘束の必要性の説明を行い、拘束しないケアの理解に努めている。	/	/	/	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	必要に応じて、説明が出来るように知識を深めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	制度の説明を行ったうえで、利用者様・家族様が良いサービスを選べるように話を伺っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	自己に合った制度を提案し、連携機関で支援が受けられるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全職員が参加し、知識習得し、実践力を身につけるよう努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハットについて、職員間で検討し、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	常に利用者様一人ひとりの状態を把握し、リスクや棄権について検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情のある時は適宜対応して、対応方法を検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情を寄せられた場合、速やかに対応し、市町にも報告している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情への対策を検討し、改善した経過などを伝え、前向きに話し合っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や第3金曜日の家族会で、個々に意見・要望を受けている。	/	/	○	3か月に1回アセスメントを行い、不安なことや何かしたいこと、食べたいものはないかなど、利用者一人ひとりの要望を取り入れている。年に1回のアンケート結果から得られる家族の意見も大切に職員間で話し合い共有しており、面会時は気持ちよく話してもらえよう気配りしている。管理者は職員一人ひとりに声をかけたり、時には職員が個人的に提案してくることもあるなど、職員の意見等は積極的に取り入れ事業所の運営等に生かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱やアンケートの実施をし、運営に反映している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	利用者様、家族様の苦情があるとき、相談窓口を設けている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	全体会議等に参加し、意見交換を行っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	全体会議後などに意見や提案等を聴く機会を持ち、検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、自己評価に年1回以上取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議に出席経験のある家族の中には、「今頃どんなの？」と気にして聞いてこられる方もいる。今後良いところは継続し、改善すべきところは改善するなど、外部評価結果を事業所の運営に生かせるよう努力を重ねる予定であり今後の取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所には現状を明らかにしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を達成計画し、それに向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議・家族会等に報告し、そのモニターをしてもらっている。	x	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等でサービス評価の取り組みの成果を確認して、日常ケアに反映するようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	対応マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	地域住民の参加を得て避難訓練を実施しており、消防署とのつながりも深く、法人の施設が隣にあるため連携もできている。今後は運営推進会議の参加者に事業所内の視察をしてもらい、避難時の対応がスムーズにできるよう進めていく方針であり実践に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	防災訓練を定期的に行い、マニュアルを再確認し、利用者様が非難できるよう、全職員が意識付けている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備、非難経路、備蓄している食品、水等、定期的に点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の国分地域の総代の協力も得て、防火訓練に参加して頂いている。	x	x	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定し、訓練を行っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	日々の認知症ケアを活かし、勉強会や研修会等参加し、全体会等で報告している。	/	/	/	地域住民には、事業所が高齢者の相談支援をしていることが周知され、法人の支援相談員とともに相談に応じている。小学生の職場体験や春祭りには神輿や獅子舞が来てくれたり、地元の保育園の運動会の見学や草引きや剪定のボランティアを受け入れるほか、敬老会で保育園児と交流するなど、地域との連携は強固である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の認知症の方や家族様などからの相談を行っている。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	イベントや交流の場を設け、地域の人たちも集まっている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	地域の研修生や実習生を受け入れ協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	地域との連携を図り、活動している。	/	/	◎	